



女性学研究センター年次報告・2021年度

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017705

女性学研究センター年次報告・2021年度

1. 運営体制

所長 牧岡省吾（人間社会システム科学研究科長）

主任 内藤葉子

副主任 児島亜紀子、乾順子

『女性学研究』編集委員長 熊安貴美江

『女性学研究』編集委員 児島亜紀子、宮脇幸生

共同研究員 青木賜鶴子、伊藤良子、上村隆広、工藤宏司、熊安貴美江、東優子、福田珠己、宮脇幸生、楊眞淑

学外研究員 阿久澤麻理子（大阪市立大学）、浅井美智子（元大阪府立大学教授）、足立眞理子（お茶の水女子大学名誉教授）、伊田久美子（大阪府立大学名誉教授）、木村涼子（大阪大学）、高岡尚子（奈良女子大学）、田間泰子（大阪府立大学名誉教授）、福永真弓（東京大学）、古久保さくら（大阪市立大学）、堀江珠喜（大阪府立大学名誉教授）、村田京子（大阪府立大学名誉教授）、山中京子（大阪府立大学名誉教授）

[運営委員]

委員長 牧岡省吾（所長）

副委員長 内藤葉子（主任）

運営委員 児島亜紀子（副主任）、乾順子（副主任）、真嶋由貴恵（現代システム科学専攻）、近藤直樹（人間社会学専攻言語文化学分野）、酒井隆史（人間社会学専攻人間科学分野）、木曾陽子（人間社会学専攻社会福祉学分野）

事務職員 伊藤ゆきこ

2. 授業

• 大学院科目

「ジェンダー研究特論A」（半期2単位。東優子）

「同B」（半期2単位。乾順子）（〔2017年度以前入学生用〕「ジェンダー論特論2A」）

- 「同C」(半期2単位。内藤葉子) ([2017年度以前入学生用]「ジェンダー文化特論B」)
- 「同D」(半期2単位。児島亜紀子)
- 「同E」(半期2単位。内藤葉子)
- 「ジェンダー研究特別演習I」「同II」(半期各1単位。東優子他)
- 「家族社会学特論」(半期2単位。乾順子) ([2017年度以前入学生用]「ジェンダー論特論2B」)
- 「人間科学特殊講義A」(集中講義。田間泰子)
- 専門科目 (現代システム科学域、地域保健学域)
 - 「家族社会学」(半期2単位。乾順子)
 - 「教育福祉の諸問題B (性と人権)」(半期2単位。東優子)
 - 「ケアリング論」(半期2単位。児島亜紀子他)
 - 「多文化共生の思想」(半期2単位。内藤葉子)
 - 「ジェンダーと社会」(半期2単位。巽真理子)
 - 「共生社会とジェンダー」(集中講義。堀江有里)
 - 教養科目 (機構提供科目)
 - 「ジェンダー論への招待」(半期2単位。熊安貴美江・内藤葉子・上村隆広・伊田久美子 (ゲスト)・福田珠己・大森順子 (ゲスト)・宮脇幸生・乾順子・東優子)
 - 「ジェンダーと現代社会」(半期2単位。伊藤良子)

3. 第25期女性学講演会

「計量分析から読み解くジェンダーと家族」

(2021年10月23日 オンライン開催)

コーディネーター：乾順子 (大阪府立大学准教授、女性学研究センター副主任)

内藤葉子 (大阪府立大学准教授、女性学研究センター主任)

講演1 「同居・扶養・介護についての意識はどう変わってきたのか」

講師：乾順子 (大阪府立大学准教授)

講演2 「ジェンダーの視点からみる「おとな親子関係」とその変化」

講師：筒井淳也 (立命館大学教授)

講演3 「結婚・離婚と性別格差」

講師：田中重人（東北大学准教授）

4. 女性学コロキウム

「生殖の「半圧縮近代」を考える」

（2022年3月15日 オンライン開催）

講師：田間泰子（大阪府立大学名誉教授）

5. 男女共同参画事業

「変わりゆくアフリカの身体加工と廃絶運動の現在——女性器切除という慣習」

（2021年7月17日 オンライン開催）

コーディネーター：宮脇幸生（大阪府立大学教授）

内藤葉子（大阪府立大学准教授、女性学研究センター主任）

「女子割礼・女性器切除のローカル社会における意味づけと廃絶運動に対する反応：ケニア・牧畜社会の事例から」

講師：中村香子（東洋大学准教授）

「東アフリカにおけるローカルなFGM/C廃絶運動について：ケニア西部のマサイの事例から」

講師：林愛美（大阪府立大学客員研究員）

「多様化するFGM/FC：ケニア・グシイ社会から見えてくる女性の身体をめぐる課題」

講師：宮地歌織（佐賀大学客員研究員）

6. ジェンダー研究セミナー

「移動・ホーム・ジェンダー」

（2021年10月16日 オンライン開催）

「農村の結婚移民女性と「ホーム」——移住プロセスと家族」

研究発表：大野恵理（神奈川大学）

コメント：倉光ミナ子（お茶の水女子大学）

司会：福田珠己（大阪府立大学教授）

*日本地理学会・ジェンダーと空間／場所研究グループとの共催

7. 図書・文献資料の収集

例年どおり、外国語文献資料ならびに新刊邦語文献を中心に収集した。諸雑誌の購読も継続している。

8. その他

[後援事業]

- 同志社大学人文科学研究所 連続講座2021
「〈性の管理〉の近現代史——日本・ヨーロッパ・アメリカ」
(第1回：2021年6月18日、第2回：6月25日、第3回：7月2日)
- マックス・ヴェーバー没後百年シンポジウム
「学知の危機とマックス・ヴェーバー ——科学主義と反知性主義を超える」
(2021年12月19日)
主催：ヴェーバー没後100年シンポジウム実行委員会
- SEE性教育アカデミー2021
「みんなで考えよう：わたしたちのSARプログラム」
(2022年2月27日 I-siteなんば)
主催：SEE (Sexuality Education and Empowerment)

* * *

今年度も世界的に新型コロナウイルス感染拡散が懸念されたため、当センターの予定事業については、昨年度と同様にZoomを利用することで無事終了することができました。関西圏のみならず遠方からもたくさんの方が参加してくださいました。みなさまのご協力に心より感謝申し上げます。

前年度に引き続き、女性学・ジェンダー研究の推進による男女共同参画社会の実現をめざす活動に、学内外の諸機関等と連携しながら取り組んでまいりました。女性学講演会では、乾順子准教授と内藤葉子准教授のコーディネートにより「計量分析から読み解くジェンダーと家族」を開催いたしました。この講演会は、日本家族社会学会の全国家族調査委員会による全国家族調査 (NFRJ) データを用いて、高齢者のケアについての意識、成人子と親の関係、離婚後の

経済状況などを計量的に明らかにするとともに、1999～2019年のデータから見えてくる日本の家族についての規範や実情、課題を概観することを目的として行われました。3名の講師から統計データを中心に介護問題、親子関係、結婚や離婚の問題を読み解いていく報告がなされました。

男女共同参画事業では、宮脇幸生教授と内藤葉子准教授のコーディネートのもと、講演会「変わりゆくアフリカの身体加工と廃絶運動の現在——女性器切除という慣習」を開催いたしました。アフリカなどで文化や慣習、宗教の名のもとに行われてきた女性器への身体加工（「女性器切除／女子割礼（FGM/FC）」）に対して、1970年代から国際的な廃絶活動が行われてきましたが、現在でもその廃絶には至っていません。この慣習に対してグローバルに展開されている廃絶運動がはらむ矛盾や問題点について、3名の講師から、ケニアの3つの社会を事例にあげてお話いただきました。

女性学コロキウムでは、「生殖の「半圧縮近代」を考える」というテーマのもと、田間泰子本学名誉教授（学外研究員）によりアジア14カ国の調査データや「半圧縮近代」という概念をてがかりに、性と生殖をめぐる健康と権利に関するご報告がなされました。

ジェンダー研究セミナーでは、福田珠己教授のコーディネートのもと、日本地理学会・ジェンダーと空間／場所研究グループとの共催で、「移動・ホーム・ジェンダー」が開催されました。1名の講師から、新潟県上越地方の中山間地農村および移民女性の出身地であるフィリピン・ルソン島北部のバギオにおける調査をもとに、移住女性が経験する移住先社会と出身社会の2つの領域に埋め込まれたジェンダー関係についてご報告いただきました。

なお、今年度から新しく乾順子准教授が人間社会システム科学研究科に赴任され、本研究センターでは副主任を務めていただきました。さらに近藤直樹教授に本研究センター運営委員になっていただきました。新しいメンバーを迎え、気持ちを新たにセンターの活動を推進していく所存です。

『女性学研究』への投稿につきましては、今年度は投稿論文の掲載はありませんでしたが、熊安貴美江編集委員長、児島亜紀子編集委員、宮脇幸生編集委員のもと、出版に向けて準備を進めていただきました。

みなさまのご協力のもと、ジェンダー研究が本学教育研究の特色のひとつであると自負しうる実績を積み重ねることができました。今後ともセンターの活

動へのご注目・ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

女性学研究センター

主任 内藤葉子

副主任 兎島亜紀子、乾順子